

1-1 情報システム部に対するヒヤリング結果

事前に提出を受けていた IT の概要に関する資料を査閲した上で、システム部担当者に対して、初めて、ヒヤリングと関連する追加資料のレビューを行った。これは、IT の概括的把握と全社の統制及び全般統制に関する整備状況の評価に該当する。

その概要は次のとおりである。

1. 販売管理システムと債権管理システムは本社に設置されたオフコン (AS400)、在庫管理システムは半年前に新しく更新された倉庫の UNIX マシン (オラクル) で処理されている。
2. 会計システムは、初期に開発され、本社のオフコンで処理されている。本来はスタンドアロンで利用されていたものを販売管理システムの開発時にネットワークで繋ぐこととなった。
3. 本社と倉庫は IP-VPN を使用したイントラネットで結ばれている。従業員がイントラネット上の PC を立ち上げて使用するためには、個人 ID とパスワードが必要であり、その管理は人事情報と連動して十分に行われている。ただし、パスワード設定のルールは無い。
4. 会社としてのセキュリティポリシーはなく、会社全体としてのセキュリティ方針が明示されていない。
5. 債権管理システムと販売管理システム、在庫管理システムは、いずれもイントラネット上の PC を使用しているが、これらのアプリケーションの使用には、イントラネットの使用と異なるアクセス・コントロールが、各アプリケーションでなされている。会計システムは経理の専用端末から処理するように設定されている。
6. 各アプリケーションとも、データを日次で夜間に自動バックアップを実施しており、バックアップした DAT は 3 日分を、本社、倉庫、それぞれのマシン室内に保管しており、外部保管は行っていない。
7. 各アプリケーションは、いずれも、情報システム部で開発されたものであり、業務の変更に合わせて変更を繰り返してきている。開発に関する明文の規定は存在しない。
8. アプリケーションのプログラム変更については、規定により情報システム部長の承認が必要とされているが、実際には業務の忙しさとオープン系の導入により、一部混乱が生じて、変更の記録と管理が不十分な点がある、とのことである。
9. 情報システム部では、すべてのシステムの夜間バッチ処理について、翌朝、ジョブログが正常終了していることを確認している。異常終了が発生している場合は、システムごとに必要な対応を行っている。
10. 最近、一番多く発生している異常終了は、在庫管理システムによるものであり、その対応方法は、以下のとおりとのことである。
 - ① 在庫管理システムは、在庫の更新を夜間バッチで処理している。出庫確認入力によ

る出荷実績ファイルの更新は、入力後の日次締めで実施され、販売管理システムに出荷実績データが送信されるが、在庫ファイルの更新は、その後の夜間バッチのため、在庫リストの出力は翌朝となる。

- ② 異常終了の原因は、在庫管理システムの在庫ファイルの更新処理の失敗であり、その結果、特定の商品の在庫に赤残などの誤った数値が出力される場合も、時々確認されているが、抜本的な対策は立てられていない。
- ③ 異常終了が発生していた場合、情報システム部が倉庫の担当者に電話して、在庫数値の異常の有無の確認を依頼する。倉庫の担当者は、在庫リストに出力されている数値と在庫現物数量とのチェックにより異常の有無を確認し、異常のある場合は、情報システム部に電話で正しい数値を連絡する。情報システム部の担当者は、直接、在庫ファイルを正しい数値に訂正している。

以 上